

テーマ別名刺交換会 記録シート

テーマ	児童養護施設等を退所した若者の支援（Bグループ）				
リーダー	春田（児童養護施設鹿深の家）				
進行補助	葛城 （大津市社協）	記録	岩本 （県社協）	参加者数	12名
1. 課題提起されたこと、グループでの意見交換の視点（箇条書き） ・新しいつながりを作る子どもたちの苦労とそれに対する手立てを考える。					
2. 参加者の気づき、課題と感じていること（箇条書き） ・若者食堂ができれば救われる若者もいるのではないか。 ・企業として、①ハード面、ソフト面をちゃんとしている企業を増やしていく。②支援者の立場になるのではなく、「知る」というところを共有する ・社会の中で里親を知っている人が少ない。知ってもらうためのフォーラムを開催する。里親を増やすのもあるが、里親を知ってもらい、地域で育てるという思いを持てたら、子どものためにすぐに行動ができるのではないか。里親を知ってもらう活動をしていけたら。 ・障がいの施設は社会に出るための訓練を積み重ねる。児童養護施設はそこにまで至らないまま、自分の理解（不安など）もできていないまま社会（就職）に出ていく。そこを何とかしないと。 ・働くという意識がない。児童養護地域小規模施設を開設し、食事も自分たちで。出た後にどうして生活が続けていくかを考える。障がいと比べて地域とのつながりが少ない。 ・つながっていくためには工夫が必要とあったが、それ以前の問題なんだなと思った。まずは知ってもらうというアクションが必要。 ・つながりたいときにつながれるスキルを持つことが大切だなと思った。 ・子どもたち自身が困っていると感じて、助けてと言える力をつけていかないといけない。 ・仕事体験の中で細くてもつながりを作り、施設では見せない力を発揮している姿を見せていただいている。子どもたちの成功体験になり、自信にもつながっている。					
3. 現場の課題に対応して、だれと、何を創造実践していきたいか（箇条書き） ・アフターケア事業所が県内に必要。自分のことを深く語らなくてもわかってもらえる場所。相談があってもなくても行ける場所。 ・トラブルシューター制度…相談窓口。必要なところにつなげるしくみができるといい。 ・退所後、施設で育ったことを出したいくない子に地域でどう関わってもらうか。アフターの課題。 ・安全性の高い SNS でのつながり ・対象の年齢の壁を超えるコーディネーター ・医療機関 ・当事者グループ ・司法（弁護士） ・自分の家族をつくるための基礎を身につけられる場					